



隠れスポット満載「サレルノ」と 世界遺産「パエストゥム考古学遺跡」

イタリア政府観光局 (ENIT)



爽快な絶景スポット



港から街を望めば、宝宝箱のよう

イタリア南部・カンパニア州第二の都市「サレルノ」。ナポリ、ポンペイ、カプリ、アマルフィといった世界的に有名な観光地の影に隠れがちですが、歴史、アート、街歩き等々、実は見どころがたくさん。サレルノと近郊の世界遺産「パエストゥム考古学遺跡」は、是非訪れていただきたい場所の一つです。

隠れスポット満載、サレルノの街の魅力

サン・マッテオ大聖堂

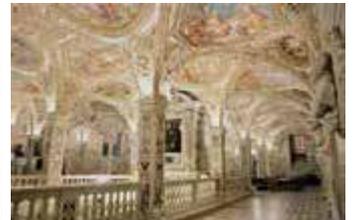
1079年創立。南イタリアで重要視される建築の一つであり、12世紀頃のビザンツ様式の門、内部のモザイクは圧巻です(オリジナルは現在、司教区博物館に展示)。またこの大聖堂が知られる理由が、グレゴリオ7世のお墓があること。カノッサの屈辱で知られる教皇グレゴリオ7世は、晩年をこのサレルノで過ごしました。そして地下礼拝堂に足を進めると、バロック建築の世界が広がります。1700年代のフレスコ画が保存されたその彩りは、言葉が見つからない艶やかさです。



大聖堂入口



グレゴリオ7世眠る



地下礼拝堂

ミネルヴァ庭園

ヨーロッパでも古い医学学校と言えばボローニャ大学が知られますが、それに次ぐのがサレルノ大学。当時のサレルノ医学学校の起源は9世紀ごろと言われておりますが、はっきりとした詳細はまだ明らかになっておりません。その医学学校のこの庭園の存在が確認できるのは12世紀の書物の中。街の斜面に段々に作られた植物園からの景色は抜群です。1991年11月以降、サレルノ市の行政が所有権を有することとなり、2000年にこのミネルヴァ庭園が当時の様子を残す植物園として一般公開しています。庭園の特徴は内部デザイン。中心からまずは十字に、そしてさらに細分化された放射線を描くかのように、それぞれの植物の特性などを生かして植えられています。



庭園を見下ろす



庭園内階段



庭園構造図

アレキ城

アレキ城は街を一望できるスポットであり、イベント(結婚式やディナーなど)にも利用される中世のお城です。城の起源は6世紀。その後ロンゴバルド王アレキ2世が8世紀に守備を補強しました。時代はノルマン時代、アンジュー時代、そしてアラゴン時代へと変遷し、今に至るこの城は、まさに街の歴史をその高台から見続けてきた存在です。



アレキ城内部



街で一番高いスポット、アレキ城

アートな街並み

まずサレルノの港に見えてくる、流線形の新しい建築物。日本でも知られる建築家・故ザハ氏が設計し2016年に完成した港です。そしてもう一つは、もともとはアマルフィ海岸のオフシーズンにサレルノの街に滞在した労働者の生活地区。高台までのエレベーターが設置されるこの地区が近年空き家が目立つようになったことから、街をあげての活性化が始まり、若手アーティストが手がけた作品が壁を彩ります。



壁アート



路地にもアートが



故ザハ氏設計

クリスマスシーズンのイルミネーション 「ルーチ・ダルティスタ」

毎年クリスマスの時期から1月下旬にかけて街の中心の公園で開催される「ルーチ・ダルティスタ」。イルミネーションアーティストによる数多くの作品が、街を暖かく彩ります。テーマは「おとぎの国の物語」。子供から大人までお楽しみいただける光のイベントです。

公式サイト

<http://lucidartista.comune.salerno.it/>


光の船

郊外に足をのぼして～ 世界遺産「パエストゥム考古学遺跡」

カンパニア州の考古学遺跡というとポンペイが有名ですが、サレルノ市内から車で30分ほどのところに、貴重な古代ギリシャ・ローマ遺跡が残ります。世界遺産にも登録されている「パエストゥム考古学遺跡」です。南北に6km、東西に1.5kmの広さのこの遺跡には、古代ギリシャ・ローマ時代の神殿が3つ、その姿をとどめています。

バジリカとネプチューン神殿

海の神ネプチューンを祭ったこの神殿は、ここ1、2年で中まで入れるようになりました。中に入ると感じる神聖な空気、そして突き抜ける空が最高です。ギリシャ時代以前の先史時代のものも発掘されたこの地に立てば、何千年も前からこの地に人間が生活していたことをヒシヒシと感ずることができます。

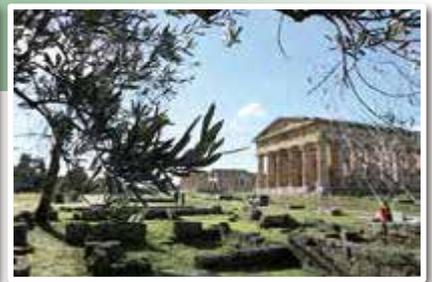
考古学博物館

遺跡の前に建てられた博物館。外観建築はファシズム時代を思わせますが、中に入れば古代へタイムスリップ。発掘された先史時代からの発掘物が収められています。

中でも有名なものが、古代ギリシャ時代のフレスコ画です。通称「ダイバーの墓(Tomba del Tuffatore)」と呼ばれ、彼岸への旅立ちを表すこの表現は、他の遺跡では見られない当時の人々の哲学や思想を直に感じる貴重なものです。



アテネ神殿



バジリカ(手前)とネプチューン神殿(奥)



いざネプチューン神殿内部へ



目抜き通り

★パエストゥム考古学遺跡へのアクセス

【列車】

ナポリから列車で約1時間20分。
カパッチョ・ロッカダスピーデ(Capaccio-Rocccadaspide)、
またはパエストゥム(Paestum)で下車。

【バス】

ナポリ、サレルノから直行バスあり。
GiulianoBus社(1日1～2本、所要時間約2時間半)と
CSTP社の2社が運行。



博物館外観



墓のフレスコ画

協力：イタリア政府観光局(ENIT)、 EPT Salerno